

## 「看護者に必要な姿勢・態度」に関する学生の意識 — 4年課程1年次における基礎看護実習Ⅰ終了後の調査から —

横山 孝子 内山 久美 大澤 早苗

患者－看護師という二者関係を基盤に展開される看護においては、看護者の醸し出す雰囲気为非言語的メッセージとなり、非常に重要な要素であると考えられる。

そこで、看護学科入学後初めての臨地（見学）実習終了後の学生に、「看護者に必要な姿勢・態度」について調査しコード化により抽出したカテゴリーを、ケアリングの概念に基づく道徳的姿勢の観点から分析した。その結果、学生が現段階で意識している「看護者に必要な姿勢・態度」は、優しさ、思いやり、尊重する、信頼、包容力のサブカテゴリーで構成される、相手を大切にすることを象徴されている。それはケアリングを基盤にした道徳的姿勢に相応する傾向にあることがわかった。その一方で、看護者の姿勢や態度に対する意識が低いと考えられる学生の存在も示唆された。

キーワード：職業的発達、看護基礎教育、ケアリング、気づかい

### I. 緒 言

看護は、患者－看護師という二者（人間対人間）関係を基盤に展開され、そこでのコミュニケーションにおいては、一般に非言語的メッセージがおおよそ9割を占めるとされている<sup>1)</sup>。患者－看護師関係における看護者の非言語的メッセージとは、看護者の表情や声の調子、態度、姿勢等を指しており、これらは看護者の様々なものごとに対する考え方や感情が反映されたものである。コミュニケーションにおいては、送り手が何を伝えたかではなく、受け手が何をメッセージとしてキャッチし、そこから何を感じ、どのような心象を得たかが重要である。その意味で非言語的メッセージは患者－看護師関係成立の重要な鍵となる。このような意味をもつ看護者の非言語的メッセージは、河口らの言う「看護師がもつ価値観、態度などが醸し出す雰囲気」<sup>2)</sup>に通じるものと考えられる。

河口らは、「患者教育のための“看護実践モデル”開発の試み」において、看護師がもつ価値観、態度などが醸し出す雰囲気は、患者の教育効果を左右していたと報告している。その結果を踏まえ、「看護者の醸し出す雰囲気は患者にとっては一種の学習環

境でもある」という視座から、「Professional Learning Climate」(PLC)と命名している。看護職者の雰囲気や姿勢は、知識や技術と異なり、明確に定義することが困難としながらも、「専門家の雰囲気や姿勢は実践のうちに体現されている知であり、Reflective Thinkingができる環境で実践の蓄積をすることにより、身に付いていく専門家の実践知である」<sup>3)</sup>と説く。

「専門家の実践知」である看護実践について、ベナーは「看護という実践にはある卓越性（卓越した人間性）が体現されている。看護実践とは一種の道徳的技術（moral art）であって、単なる応用科学や技術ではない」<sup>4)</sup>と述べている。この道徳的技術について、ベヴィスらは看護教育の道徳的使命としてケアリングを提唱し、「ケアリングとは、愛する者が自己実現を果たせるような環境づくりを促す」<sup>5)</sup>としている。そのケアリングの定義をワトソンは、「他者を個性をもった個人として扱い、他者の感情を感じ取り、その他大勢とは区別するとき、これがケアリングである」<sup>6)</sup>とする。

このように看護者の醸し出す雰囲気は、看護実践において大きな意義と機能を担っていることになる。だからこそ、看護職への職業的社会化の段階で、学

生が将来的にケアリングを発展させていけるよう、その素地を培う必要がある。『ケアリングカリキュラム』の監訳者である安酸は、「ケアリングの本質は実際の人との関わりでの〈癒し〉〈癒される〉関係を通して体得するのではないか<sup>7)</sup>」として、看護カリキュラムにおけるケアリング・モデルへのパラダイム・シフトを提唱している。

筆者らは、これまで2年課程修了前の学生が捉えた「看護者に必要な姿勢・態度」を、先出のPLCの視座から検証し縦断的研究の意義を述べてきた<sup>8)</sup>。また、青年期にある学生の職業的発達について進路決定前の声と看護大学入学直後の「看護イメージ」調査結果からモデリングの重要性を確認した<sup>9)</sup>。本報では、看護学を学習後、初めての臨地実習終了後における学生の「看護者に必要な姿勢・態度」についての意識をケアリングの視座から検討し、看護基礎教育における職業的社会的化への示唆を得たい。

## II. 研究の意義

「看護者に必要な姿勢・態度」的能力の今日的位置づけ

今回、筆者らが用いた「看護者に必要な姿勢・態度」とは、一般に、看護職の専門的知識、技術、態度として語られる、専門的態度に相応する能力を意味している。それは従来、看護師の資質あるいは豊かな人間性、人間的資質等と表現され、看護職のアイデンティティの中核を成してきたと言っても過言ではない。

看護学の領域では、1980年代以降、ケアリングへの関心が高まり、ケアリングが看護学の概念を表す特性であるという考え方が広まった<sup>10)</sup>。このケアリングの概念に基づいて、上述した従来の専門的態度は態度や資質といった意味合いを包含しながら、看護者の高度な専門的能力という視点から幅広い解釈が試みられていると言えよう。

例えば、ベナーらは「医療がもたらす科学技術の手に委ねられている時代において、看護師を熟練看護師たらしめるのは一体何かを研究し、単なるテクニクと科学知識だけでは不十分だ」という結論を得た。実に「気づかいこそ、人間の熟練実践にとっての必須条件である」と述べ、「気づかいは、人間の知の働きと存在(いきかた)を一体的に表現する言葉」と位置づけている。そして、「看護は〈人を気

づかい世話をする実践〉(caring practice)のひとつであり、そこで用いられる科学は、人を気づかい責任を引き受けるという道徳的スキル(moral art)とその倫理とによって統制される。道徳的スキルとしての気づかいは、あらゆる医療実践を導く第一原理である<sup>11)</sup>と提言した。

これらから、看護者の姿勢・態度は、今日、ケアリングの概念の下で専門的知識、技術と道徳性や倫理性を基盤にした質の高い専門的能力として位置づけられていると解される。

## III. 研究方法

### 1. 意識調査の実施

4年課程1年次の看護学科学生を対象に、「基礎看護実習I」(表1)終了後の平成15年12月9日に、「看護者に必要な姿勢や態度についてイメージするもの」と題して、自由記述式調査を実施した。承諾が得られた学生は108人中86人(79.6%)であった。

### 2. データの分析方法

調査の結果得られた初期カード(767枚)を、意味内容の類似性(KJ法)によりコード化した。第1段階で、初期カード767枚の意味内容分析により779枚のカードに整理し、第3段階で22カテゴリーを抽出した。KJ法により得られたカテゴリーについて、ノッディングスの『道徳的姿勢』を説明する用語<sup>12)</sup>、『受容性』『関係性』『反応性』『主観性』の視座から検討した。

### 3. 倫理的配慮

学生に調査目的及びデータの取り扱いについて口頭にて説明し、調査への協力を依頼した。

## IV. 結果

学生86人が記入した初期カード数は767枚で、平均記入数は8.9枚(最大20~最小1)であり、55.8%の学生が6~10枚の記入であった。学生の記入度数分布を表2に示した。「看護者に必要な姿勢や態度」調査における初期カードのコード化の結果、22カテゴリーが得られ、さらにそれは《人間的資質》、《専門的能力》という2つのコアカテゴリーに大別された(表3)。

表1. 基礎看護実習 I の概要

単 位：1 単位 (45時間)  
 実習形態：見学実習  
 実習施設：医療施設・老人保健施設  
 目 的：様々な健康状態にある人が、あらゆる場で生活していることを観察し、看護の役割について学生間で共有する学習を通し、今後の学習の方向性をつかむ。  
 実習展開：  
 1 日目：オリエンテーション (実習の位置づけ・目的・展開・実習心得・危険防止・実習施設概要等)  
 2 日目：病院見学実習  
 3 日目：  
 4 日目：  
 5 日目：老人保健施設見学実習  
 6 日目：実習まとめ (患者、入所者及びその生活について理解できたこと、看護に必要なこと等をテーマに、KJ 法にて整理し共有する)

表2. カード記入度数分布

度数	人 (%)
20~16	8 ( 9.3)
15~11	16 ( 18.6)
10~ 6	48 ( 55.8)
5~1	14 ( 16.3)
計	86 (100 )

(基礎看護実習 I 資料より)

表3. 「看護職に必要な姿勢・態度」—基礎看護実習 I 終了後の意識

n = 779

人間的資質			専門的能力				
カテゴリー	サブカテゴリー	下位カテゴリー	カテゴリー	サブカテゴリー	初期カード		
相手を大切に 関わり	思いやり	思いやり	専門的な技術	専門的な技術	正確な技術 丁寧な技術 専門的な技術 基礎技術 最新医療機器の扱い方		
		信頼			信頼	コミュニケーション能力	コミュニケーション コミュニケーション力 はっきりした声かけ 目を見て話を 患者の視線でみる 話し上手
	包容力	包容力		観察能力	鋭い観察 感受性 気づき ひらめき 観察眼		
	優しさ	安心感 親近感 優しさ 温かさ		判断能力	適切な判断能力 冷静な判断能力 様々な状況に対応できる 判断力 決断力		
	尊重する	理解する心 見守る 尊敬する心 平等		気配り	気づかい 気が利く 細やかな配慮 注意を払う 周りに目を配る		
好感のもてる印象	清潔感がある	整理整頓 清潔感	相手の立場に立って考える	相手の立場に立って考える	患者を第一に考える 患者を中心に援助する 同じ立場に立って考える 同じ視線で考える姿勢		
	明るさ	明るさ 笑顔			キャリアアップ	キャリアアップ	自ら学ぶ姿勢 学ぶ意欲 自分を磨く 高度な専門性 反省する心 絶え間ない努力
	健康	元気 健康					専門的な知識
パートナーシップ	パートナーシップ	感情表出 自己コントロール 感情をコントロールする パートナーシップ 忍耐力	使命感	使命感	専門職者としての意識 使命感 病気を治そうと思う気持ち 患者に文句を言わない		
責任感	責任感	責任感 自分の考えをもっている 正確 記憶力 冷静	チーム医療	チーム医療	チーム医療 医療従事者との信頼関係 医療スタッフや学生同士の思いやり		
聴く力	豊かさ	広い視野 豊かさ	インフォームド・コンセント	インフォームド・コンセント	説明をきちんとする 説得力 インフォームド・コンセントの重要性		
	柔軟性	受容 柔軟性			プライバシーを守る	プライバシーを守る	プライバシーを守る 秘密を守る 患者のプライバシーの保護
	聴く力	共感 聴く力 理解力			ケア	ケア	介助 援助 ケア
真摯な姿	真摯な姿	真摯な姿	信頼関係	信頼関係	信頼関係 患者・遺族との信頼関係		
	誠意がある	素直 誠意 謙虚さ	尊敬	尊敬	尊敬		
向上心	向上心	向上心 前向き 意欲的 探究心	QOL	QOL	QOL QOL の向上		
		基本的のマナー	基本的のマナー	死生観	死生観	自分の死生観を持っている	
基本的のマナー	基本的のマナー	人・場にあった言葉遣い 素養 挨拶					
機敏さ	機敏さ	機敏さ					

表4. 基礎看護実習I終了後のまとめ (KJ法)

テーマ	カテゴリー	テーマ	カテゴリー	テーマ	カテゴリー
① 患者の看護の立場に立つ	・コミュニケーション (看護の基礎) ・援助 (自立を促す) ・医療ミス防止 ・インフォームド・コンセント ・環境 (過ごしやすい環境) ・看護側の心構え(人権の尊重) ・知識	⑥ 看護にあるもの 看護師と患者の間	・コミュニケーション ・心がけ ・人権の尊重 ・観察 ・技術 ・衛生 ・制度	⑫ コンが大切 コミュニケーション	・社会的背景 ・アセスメント ・院内感染予防 ・危険予防対策 ・チーム医療 ・コミュニケーション ・体力
② 患者中心	・個別ケア ・コミュニケーション ・プライバシー ・環境整備 ・確認 ・ナース自身 ・看護の心得 ・チーム医療	⑦ 看護するために 看護師として理解	・コミュニケーション ・行動の意味 ・理解・判断力 ・ナースの姿勢 ・生活 ・プライバシー ・情報と引継ぎ ・医療ミスを防ぐ	⑬ Let's study together	・Let's コミュニケーション ・声かけをしよう ・意識をもとう ・笑顔が一番 ・食事は一人一人に合わせてよう ・環境は整えよう
③ 受容と供給	・医療行為 ・コミュニケーション ・心遣い・気遣い ・患者	⑧ 看護のつながり	・日本の現状 ・環境 ・技術 ・コミュニケーション	⑭ 医療・看護のつながり	・点滴 ・ミスを防ぐダブルチェック ・食事 ・処理 ・コミュニケーション ・観察 ・能力に合わせて
④ 看護はすべてつながる	・観察 ・その人に合った看護 ・患者の気持ちを考える ・コミュニケーション ・援助 ・援助上の注意 ・知識・技術 ・体力・チームワーク	⑨ 看護の展開 知識を基本とする	<心の面> ・自立・観察 ・コミュニケーション ・プライバシー <技術面> ・環境 ・衛生面 ・医療事故防止・チームワーク	⑮ さぐれ・看護の実態	・施設について ・コミュニケーション ・治療面での注意点 ・看護師の注意点 ・看護師の心構え ・これからの課題
⑤ 看護に必要なこと	・コミュニケーション ・信頼関係 ・観察 ・判断 ・確認 ・ミスを防止 ・心がけ ・根底	⑩ 心と知識の相互関係	(心) ・心のケア ・性の感性 ・コミュニケーション (知識) ・病院・ナース・情報交換 ・患者に合った	⑯ 医療・看護の現状	・コミュニケーション ・スマイル・心のケア ・医療支援 ・衛生面 ・医療事故の防止 ・患者の自立支援 ・インフォームド・コンセント ・チーム医療
		⑪ お仕事のナース	・具体的な仕事 ・患者に対して (自立・観察・コミュニケーション) ・看護をする上で必要・大切なこと (チームワーク・患者第一) ・これから学ぶこと		

(基礎看護実習I資料より)

V. 考察

学生の「看護者に必要な姿勢や態度」の調査結果では、《人間的資質》と《専門的能力》の2つのコアカテゴリーが得られたが、ここでは研究テーマと関連する《人間的資質》について検討する。

1. カテゴリーの結果から

《人間的資質》のコアカテゴリーは、9カテゴリーに分類され、特に【相手を大切にしている関わり】が突出し、【好感のもてる印象】【パートナーシップ】

【責任感】【聴く力】【真摯な姿】【向上心】【機敏さ】【基本的マナー】と続く。これらをノッディングスの提唱する『道徳的姿勢』の用語、『受容性』『関係性』『反応性』『主観性』に照らし考察する。

ここでの『』はノッディングスの用語、“”は用語の解説で用いられている表現、《》は抽出されたコアカテゴリー、【】はカテゴリー、<>はサブカテゴリー、()は下位カテゴリーを示す。

1) 『受容性』: 現実を押さえつけるのではなく、把握し受け入れようとする試み。

この用語には、カテゴリーの【聴く力】が含まれると考える。サブカテゴリーをみると＜豊かさ＞＜柔軟性＞＜聴く力＞であり、さらにそれらは（広い視野）（受容）（共感）（理解力）等の下位カテゴリーで構成されている。これらはいずれも相手を理解する際に必要な資質や能力を指している。

2) 『関係性』：人を思いやる関係をもったり、命あるものとの関係を認めたり、ケアリングの関係を維持し、ケアリングのない関係から思いやる関係へと変容させようと格闘すること。それは相互依存の理想を体現する。また肯定的エネルギーの交換であり、互いのために互いが良きものであろうとすること。

この『関係性』の下では、人を思いやることや認めることが主眼に論じられていると解釈できる。この解釈より、サブカテゴリーに＜優しさ＞＜思いやり＞＜尊重する＞＜信頼＞＜包容力＞を包含する【相手を大切にすること】に相応すると考える。ここでいうケアリングの意味を、ノッディングスは気づかい、思いやりと説き、「ケアする者の姿勢にケアリングが感じられる時、ケアを受けている者は輝き、強靱になり、自分が何かを施されているとは感じずに、自分に何かがあると感じる」<sup>13)</sup>と断言する。ノッディングスの述べる“思いやる関係”の前提には＜優しさ＞や＜思いやり＞が必要であり、また“命あるものとの関係を認め”ることは、相手を＜尊重する＞ことに通じ、さらに“相互依存の理想を体現”するとは＜信頼＞を意味すると解される。また『関係性』には、『受容性』で述べた【聴く力】も影響を及ぼすだろう。こういったカテゴリーの背景には、実際に入院患者の生活や治療場面に触れたことで、学生の中でイメージされていた看護の対象の状態特性について、確認ができた理解の深まりがあったことが窺える。と同時に、そのような看護の対象に直接的に関わっている臨床看護師の姿に接したことで、モデリングによって看護職の具体化ができ、学生の中に強化されたものと考えられる。モデリングについては、専門職者である他者の態度や行動に共感し、その人との同一化を通して、これらの態度や行動を取り入れていくプロセスであり、専門職者としての態度と行動を修得していくために必要な学習方法とされている。

『関係性』において、ケアリングの意味が気づかい、思いやりとされていることから推察すると、サ

ブカテゴリーの＜思いやり＞の意図するところは、学生の場合も気づかひの意味を包含しており、その差異を明確にしているとは解し難い。そういった理解に立ち気づかひの意味を確認すると、ベナーは気づかひをケアリングと称して「人が何らかの出来事や他者、計画、物事を大事に思う」とことと説明し、「この気づかひがあるから、出来事や他者がその人固有の関心対象となる」<sup>14)</sup>と述べる。そして、

「看護婦が患者に注意を払いつつ患者のもとに居合わせる時、患者はそれを気づかひと受けとめる。そうした注意には、単に物理的意味で居合わせるという以上の意味が含まれている。患者は、看護婦と自分の“波長が合っている”ことを看護婦が自分のことをかけがえのない人格として意識してくれていることをそこに感じるのである。看護婦との視線の交差、看護婦のボディ・ランゲージや声の調子を通じて、患者は看護婦の自分に対する気づかひを察知する。こうした動作ふるまいは何も特別な時間を設けてなされるわけではないが、それでも患者に安らぎをもたらさう」<sup>15)</sup>

と、実践知を解説する。これらはまさに看護者の発している非言語的メッセージであり、前述した河口らの「看護者の価値観、態度が醸し出す雰囲気」、つまり PLC を指している。

以上のように、【相手を大切にすること】は援助関係によって展開される看護実践において重要な働きを成していることが分かる。それゆえに、学生の中でケアリングの働きとそのため必要とされる看護者の姿勢を、具体的なイメージ像や行動として形成されることが望まれる。今回の調査では、当カテゴリーに属する内容で最多を占めるが、その内容は多岐にわたることから、今後の学習における焦点化が課題となろう。

3) 『反応性』：受容性と関係性から自ずと生まれてくる。

ここでは、【好感のもてる印象】や【真摯な姿】、【基本的マナー】が関連付けられる。それは『関係性』の“互いのために良きものであろう”とする内容を、＜明るさ＞や＜清潔感がある＞＜誠意がある＞、【真摯な姿】、（挨拶や人・場にあった言葉遣い）等からなる【基本的マナー】で説明でき、これらは共に相手に対して印象を良くすることに繋がる看護者の姿と解することができる。学生は、実際の患者を目の前にして、あるいは患者に接する臨床看護師

の姿に“良きものであろう”と意識したと思われる。

4)『主観性』:危険を冒したり,認識能力と共に感受性を用いる意思を意味する。

この用語の“認識能力”に着目するならば,『受容性』で挙げた【聴く力】との関連が考えられる。このカテゴリーは,(共感)(聴く力)(理解力)の下位カテゴリーから成り,他者を認識するという働きの一側面を担っていると考えることができる。

以上1~4の『道徳的姿勢』を説明する用語に照らし検討してきたが,これらとは関連が薄いと考えられる【パートナーシップ】や【責任感】,【向上心】のカテゴリーは,直接的には結びつかないが道徳的姿勢を提供する際の環境基盤的な意味を有すると考える。また【機敏さ】のカテゴリーは,臨床看護師の多忙な勤務状況や煩雑さ等の見学場面から学生の中に強く印象付けられ抽出されたものと解される。

## 2. 基礎看護実習の学習成果から

それでは,これらのカテゴリーの源泉となった基礎看護実習Iにおいて,学生はどのような場面や状況を見学しているのだろうか。その実態はつかめないが,実習終了後のまとめから探してみると,「患者(入所者)及びその生活について理解できたこと,看護に必要なこと」をテーマに,学生は表4のような学習成果をKJ法により表現している。これを概観する限りでは,①~⑦の対患者関係に焦点をおいたものと⑧~⑯の看護全般を視野に入れ整理したものとに大別できる。しかし,全(16)グループに<コミュニケーション>がサブカテゴリーに位置づけられており,看護における対人関係の重要性について認識できていると思われる。そのことは,<コミュニケーション>の他に<心遣い・気遣い><患者の気持ちを考える><心がけ><ナースの姿勢>等のサブカテゴリーがみられることから窺える。このような学習成果が,《人間的資質》のコアカテゴリーに属する【相手を大切にすること】へ反映されたと考える。

## 3. カード記入度数分布から

こういった学習成果を踏まえ学生のカード記入度数分布を見ると,5割強のものが6~10枚記入し,およそ2割が11~15枚,約1割が16~20枚である。全く記入できていない学生は存在しないが,5枚以下で表現した2割弱の学生には,看護者の姿勢や態度についての意識が実習期間中低かったことが考え

られる。学生には,表1に示した実習前オリエンテーションにおいて,「実習心得」の中で実習への臨み方,挨拶,職業的倫理,服装,身だしなみ,個人衛生,事故管理等の詳細にわたり担当者から説明がなされている。そのため,自分自身のあり方に配慮がなされていれば,実習現場で目前にしている実際の看護者の姿に重ねモデル化へと発展しやすい内容と考えられる。また実習後の学習成果等を想起できれば回答に窮するとは考え難い。

その一方で,当実習が見学実習の形態をとり,看護の役割について今後の学習の方向性をつかむという目的であることから,学生の意識の中に“看護者としての自分”がどの程度意識されていたらうか。今回,設問に使用した「必要な」語は,必要とする対象が存在することを意味し,その対象が相手に望む,要求すること,つまり対象の価値基準を満たすことが前提となろう。その意味で,対象,つまり患者にとって“看護者としてここにいる自分”がどのように映し出されているかを学生が意識しない限り成立しないことになる。入学後およそ6ヶ月という期間と学習状況等を考え合わせると,学生自身の中で看護学生としてあるいは看護者としての自己への不一致感や揺らぎが生じていることも否めない。学生の職業的発達状況を踏まえた段階的支援のあり方が今後の課題として挙げられる。

## VI. 結 語

今回,4年課程1年次の基礎看護実習I終了後の「看護者に必要な姿勢・態度」に関する意識調査の分析を通して,青年期にある学生の職業的社会的化を行う上で以下のような示唆が得られた。

1. 学生が現段階で意識している「看護者に必要な姿勢・態度」は,<優しさ><思いやり><尊重する><信頼><包容力>のサブカテゴリーで構成される【相手を大切にすること】カテゴリーに象徴されている。それはノッディングスの論じるケアリングを基盤にした『道徳的姿勢』に相応する傾向にあった。

2. その一方で,実際の看護場面に接する体験終了後において,看護者の姿勢や態度に対する意識が低いと考えられる学生の存在も示唆された。職業への社会的化を開始した段階では,教師が学生の揺らぎを早期に発見し発達に見合う段階的な支援ができる

よう、その方策を検討することが今後の課題である。

以上を踏まえ、職業的社会化の途についたばかりの学生が目標達成に向けて自己形成できるよう、教育的支援のあり方を検討していきたい。

## 謝 辞

本調査に協力いただいた平成15年度看護学科入学生のみなさんに感謝いたします。

## 引用文献

- 1) 長谷川浩：人間関係論。医学書院，48，1997.
- 2) 河口てる子，患者教育研究会：患者教育のための「看護実践モデル」開発の試み。看護研究，36：179，2003.
- 3) 安酸史子，大池美也子，東めぐみ他 患者教育研究会：患者教育に必要な看護職者の Professional Learning Climate。看護研究，36：51，2003.
- 4) パトリシア・ベナー，ジュディス・ルーベル（訳者：難波卓志）：現象学的人間論と看護。医学書院，24，2000.
- 5) E. オリビア・ベヴィス，ジーン・ワトソン（監訳者：安酸史子）：ケアリングカリキュラム－看護教育の新しいパラダイム。医学書院，190，1999.
- 6) 同上，189－190.
- 7) 安酸史子：看護教育におけるケアリング－モデリング，対話，態度－。Quality Nursing，7：17，2001.
- 8) 大澤早苗，内山久美，横山孝子：看護における職業的社会化と学生の意識－2年課程修了前の「看護者に必要な姿勢・態度」調査から－。保健科学研究誌，第2号：69～78 2005.
- 9) 内山久美，大澤早苗，横山孝子：職業的社会化と看護学生の意識－オープンキャンパス参加者の声と入学後の「看護イメージ」から－。保健科学研究誌，第2号：79～86 2005.
- 10) 諸田直実，河野文子，菊地美香他：ケアリングと統一体としての人間の科学。Quality Nursing，7：34，2001.
- 11) 前掲書（パトリシア・ベナー，ジュディス・ルーベル，訳者：難波卓志）：iii－v.
- 12) 前掲書（E. オリビア・ベヴィス，ジーン・ワトソン，監訳者：安酸史子）：191－193.
- 13) 同上：193.
- 14) 前掲書（パトリシア・ベナー，ジュディス・ルーベル（訳者：難波卓志））：2.
- 15) 同上：16.

## 参考文献

- 杉森みど里，舟島なをみ：看護教育学（第4版），医学書院，2004.
- 木下康仁：グラウンテッド・セオリー・アプローチ－質的実証研究の再生，弘文堂，2004.
- 小山真理子編集：看護教育の原理と歴史，医学書院，2003.
- 舟島なをみ：看護教育学研究－発見・創造・証明の過程，医学書院，2002.
- 藤岡完治，堀喜久子編集：看護教育の方法，医学書院，2002.

（平成17年1月24日受理）

横山孝子，内山久美，大澤早苗  
〒861-5598 熊本市和泉町325番地  
熊本保健科学大学  
保健科学部 看護学科

## Nursing Students' Awareness: The Demeanor and Attitude Essential to Nursing

Takako YOKOYAMA, Kumi UCHIYAMA, Sanae OSAWA

### Abstract

In nursing, much of the nurse-patient relationship is based on the demeanor and attitude of a nurse. The purpose of this research is to assess the nursing students' awareness as to the demeanor and attitude essential to nursing. Subjects of this study are first year nursing students attending Kumamoto Health Science University, all who have just completed the "Basic Nursing Clinical Practice I" course. A questionnaire survey was conducted and data was categorized using the Kawakita Jiro Method and Noddings' conception of caring based on a moralistic standpoint. The results of the analysis show that the subcategories "kindness", "consideration", "respect", "faith", and "open-mindedness" were symbolic of caring. For the most part, the nursing students awareness as to the demeanor and attitude essential to nursing is in congruence to the concepts of caring. Further education to implement the concepts of caring into nursing practice remains to be the logical next step.